会　議　録

会　議　名	第８回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会	
開 催 日 時	令和８年８月 18 日（火）　午前 10 時～午後０時	
開 催 場 所	宍粟市役所本庁舎　４階会議室	
出 席 委 員	林　昌彦、石原　政司、谷笹　摩弥、浪花　正典、成　将希、 山本　めぐみ、岡本　一也、田中　由理、岡﨑　悦也、 西山　大作、中本　弘美、小林　由美	
欠 席 委 員	西川　彩児、井上　裕司、大垣　陽子	
事　務　局 及び説明員	（地域創生課）石垣公室長、西川次長、藤原地域創生課長、上月副課長、岸根係長、大西主査	
傍 聴 人 数	２人	
会議の区分	公開	（非公開の理由） なし
協議事項等	・第７回委員会のフィードバックについて 【資料①-１～７、参考資料１】 ・第３次総合戦略について 重点目標２及び３ 【資料②、③-１～２、参考資料２】 ・第３次総合計画及び総合戦略の答申案について【資料④】 ・今後のスケジュールについて【資料⑤】	
会 議 経 過及び 会 議 資 料	別紙のとおり	
会議録確認者	委員長　　林　昌彦　（令和８年８月 25 日確認）	

（会議の経過）

発言者	議題・発言内容
	■開会
委員長	■委員長あいさつ
事務局	■第７回委員会のフィードバックについて【資料①-１～７、参考資料１】 （説明）
委員長	委員から説明を受けて、ご意見いただきたい。
全委員	（特になし）
委員長	後ほどでも修正意見あればお伝えいただきたい。
事務局	■第３次総合戦略について 重点目標２及び３【資料②、③-１～２、参考資料２】 （説明）
委員	計画案の中で「アウトカム」や「アウトプット」といった、市民には馴染みのない英語や専門用語が多く使われている。市民が読んでも理解しやすいように、可能な限り分かりやすい言葉で書いてほしい。
委員	学校教育の質の向上の学校給食の地産地消率の目標値について、農業従事者が減る中で、温暖化などの気候変動とそれによる経費増もあり農作物の確保は容易ではないが、子どもの数も減っていく中で努力すれば達成可能な数値だと考えている。一方で、学生から「給食の時間が短く、完食しなければならないプレッシャーが強い」という意見を聞く。特に大規模校では配膳の動線などの問題で時間が削られている。食に対する安心・安全や農業への関心を育むためにも、時間に追われずに食べる環境づくりを検討してほしい。また、食の安全に関して、安価を理由に SNS で野菜を購入する方もいるとのことで、農作物を作っている身としては、心配な部分もある。 消費者行政の推進の部分に「エシカル消費」について取組が記載されていた。市民への啓発活動も実施されているとのことだが、申込みが難しかったり、方法を知らなかったりする方も多く、把握されていない状況があると思う。百歳体操や子ども会の活動などの既存のコミュニティ活動と掛け合わせて周知・情報発信を図るのが効果的なのではないか。 特定健診の受診が低い理由として、自営業や主婦層の受診が少ないことが一因としてあるのではないか。受診日として 12 月に予備日を設けてもらっていることは大変ありがたい。さらなる周知をしていくことで受診強化に繋がると思う。

委員	部活動の地域展開が進んでおり、市としても今年から認証クラブの数を増やそうと取り組んでおられる。子どもたちが地域でスポーツを続けられる環境があることを示す指標として、「認証クラブの数」などを設定してはどうか。
委員	38 ページの生ごみ減量化の項目で、あえて「リデュース（発生抑制）」を強く打ち出している理由を確認したい。リサイクルやリフューズといった他の要素もある中で、担当課としてリデュースを特に強調したいという意図があるのかどうか教えてほしい。
委員	アウトカム指標はその多くが「満足度」を指標としている。インパクト指標である「住みよい町だと思う人の割合」を 70%に高めるという目標は理解するが、各施策の満足度については、現状値が 20%弱と極めて低く、この程度の数値を上げることを目標とするのは、計画の目標設定としていかがなものか。通常、満足度は 60～80%程度をめざすべきではないかと思う。
委員	意見なし
委員	表現の仕方について、健康づくりや生きがいづくりの項目において、これまでの会議でも出されていた「ワークライフバランス」の推進といった表現をどこかに再度使用してはどうか。検討してほしい。
委員	各施策の指標としての満足度目標を達成したとしても、全体の「住みよいまちの割合」が 70%にまで上がるという論理が理解できない。アウトプット指標を上げたとしても、そこまで及ばないのではないか。また、男女共同参画等の満足度が極めて低い。市民が行政に関心がないことが宍粟市の弱点だと思う。 具体的な施策では、幼児教育の充実に「木育」の推進が含まれていないのが気になる。教育の満足度について、これほど低い数値は驚き。他の調査結果ではここまででではなかったように記憶している。これでは宍粟の教育レベルが最低だと言っているようなもの。数値の確認をお願いしたい。 書きにくい面もあると思うが、部活動の地域展開によって放課後の過ごし方が変わることで、学力の低下が懸念される。帰宅してゲームばかりするような状況にならないような政策と目標設定が必要だと思う。また、以前にも申し上げたが、女性の活躍について、自治会の役員数だけでなく、商工会等と協力して市内「企業」の育休取得状況や女性管理職の割合を把握し、目標にすべきだ。 高校生の 38%が「住みたくない」と回答している点についても、詳細な分析結果があれば教えてほしい。
委員	重点目標の満足度が全体的に低いと感じる。目標値が 20%前後では見方によるとほとんどの方が満足していないと見える。また、設備環境の整備

	について教えてほしい。
委員	高齢者が地域の中で役割を持ち、安心して暮らせる体制の強化が必要。高齢者は多様な経験値を持っており、生涯学習の講師として教える側に回ったり、自治会行事に参加したりすることが、生きがいと地域貢献に繋がる。事業の中でそうした視点を盛り込んでほしい。
委員	病児・病後児保育の目標について、この数値を上げることで施設の継続に繋がるのかもしれないが、本来は子どもが病気の時に母親が寄り添えるような「会社側の環境改善」こそが必要ではないかとも思うので、数字を上げるのではなく、「現状維持」程度の低い数値をめざす方が良い気がする。 空き家バンクについて、物件探しをしている方の話はよく聞くが、実際の成約件数は非常に少ない。これほど空き家があるのに活用されない理由は何なのか、知りたい。 地域おこし協力隊については、隊員の人数だけでなく、受入団体の母数を増やすような工夫が必要だと思う。
事務局	満足度の基準値は今回の総合計画・総合戦略策定時の市民アンケートに基づいている。満足度は長年横ばいだが、「住みよいまち」という割合は高齢者の減少に伴い低下傾向にある。目標を数値のみ高く掲げるのは簡単だが、達成可能性を考慮して現実的な設定とした。国の方向性として「ウェルビーイング」の観点から、移住促進だけでなく、今住んでいる人の満足度向上に政策の舵を切りつつある。指標については、評価段階で満足度以外の客観的な数値（モニタリング指標）も併せて計測できるものはしていきたいと考えている。 ごみの「リデュース」については、本市は粗大ごみの多さが特徴で、その運搬・処理コストが課題となっている。そのため、そもそもごみを発生させないことに重点を置いている。 若者の定住意向については、アンケートでは「道路・交通環境の不便さ」「希望する就職・進学先の不足」などが、転出の主な理由となっている。また、この年代特有の「親から離れて自立したい思い」も転出の理由の１つとなっている。部活動の地域展開は現在準備段階であり、調整もあることや指標が設定しにくい分野でもあるため、現時点では目標数値の設定が難しいと担当課から聞いている。 病児保育は、数値が増えないことが望ましいというのは理解しているが、現場から一定のニーズがあると聞いており、そのニーズへの対応を想定した数値を目標としている。
委員	参考資料で示されている市民と学生のアンケートでの「住みやすさ」のグラフが、同じ色なのに選択肢が異なる部分があったり、選択肢の順番が異なったりするのはなぜか。
事務局	選択肢の順番、色分けは、実際の調査の順番と揃えたものになっている。

	市民と学生では選択肢が違っているので、そういった表現になってしまった。
委員	「住みたくない」と回答した人を、住みたい気持ちにさせるよりも、「わからない」と回答した人に対し定住に向けてアプローチした方が、可能性が高いと思った。
委員	学生アンケートの「宍粟市以外にも住んでみたいが、いつかは戻ってきたい」の割合が大きく増加しているのはなぜなのか。設問や選択肢が異なる等あるのではないか。
事務局	設問については、同じものだったと記憶している。確認させていただく。
委員	ICT 環境整備について、「タブレットや PC の更新」とはどういう意味か。また、タブレット使用による健康被害や学力低下を懸念する声もあるが、現状をどう把握しているか。オンライン授業については、不登校の子どもが自宅から参加できるような活用はされているか。欠席した際の補習等にも使えるように現時点でなっているのか教えてほしい。
事務局	タブレットの更新とは、数年使用した端末をセキュリティや性能維持のために入れ替えることで、そのための更新計画も立てられている。オンライン授業の活用状況については詳細を確認し、フィードバックする。 また、先ほどの委員のご質問に関して、選択肢に「できれば」の有無という違いがあった。次回調査以降は統一して経年変化を見ていきたいと思う。
委員	【重点目標３】 文化の継承に関連して「木育」が出ているが、取組として弱い。市内の民間園では、リスクを負いながらも自然の中での活動を重視している園がある。公立園が安全面から踏み切れないのであれば、そうした民間園から講師として招いて研修や交流を通じてノウハウを学び、木育を推進すべきだ。 地域おこし協力隊については、これまでの検証を踏まえて要不要を判断すべき時期に来ている。制度があるからと続けるのではなく、公金を投入している以上、税金の使い方として正しいのか検討が必要。定着率も芳しくない中、地域（自治会長等）との期待のズレによるトラブルもあると聞く。
委員	地域が元気になり、その結果として観光として「選ばれる」という方向性は非常に良い。一方で、中高生の意識調査で「戻ってきたい」という回答が乱高下しているのが気になる。先生のリーダーシップ等の影響があるのか状況を把握したい。また、人口減少下では広域連携が不可欠だが、近隣市町（たつの市等）との取組はまだ弱い。観光振興含め、連携による魅力向上をさらに打ち出すべきだ。

委員	観光について、人数を増やすだけでなく、「一人当たりの消費金額」を増加させるような、高単価で満足度の高い方向性を狙うべきと思う。そのためには魅力向上とブランド化が必要。そういったものを用意できると良い。 定住促進については、空き家バンクで住める空き家があっても、地域住民が「知らない人が入ってくること」を拒むケースがあったり、不動産業者も紹介しにくかったりする面があるのではないか。自治会向けに、空き家活用への理解を深める勉強会を増やすなどの工夫もとても大切なことだと思う。
委員	空き家バンクの利用において、他地域との競合を意識した戦略が必要。他市町と比較して本市はもっと取り組むべきなのか、を判断するための情報があると良い。そこが住宅取得の目標値に表れてくるだろう。 地域おこし協力隊についても、定着率や費用対効果が見えにくい。公費を使っている以上、見える化が大事だ。 44 ページの文化財保存について、宍粟市は有形文化財が他より少なかったように思う。具体的に何をどのように活用していくのか教えてほしい。
委員	転出超過の抑制は本市の大きな課題なので重要な指標であると思うが、それに対するアウトプットの目標値は「現状維持」が多い。少しでも伸ばせる要素があるなら、1 件ずつの積上げでも前向きな数値を入れてほしい。
委員	意見なし
委員	中高生が一度は外に出たいと思うのはよく分かる。私自身も市外に出て戻ってきた身だが、結果的に出て良かったと思っている。子どもの頃の祭りや、自然の中での少し危険を伴うような体験が、大人になってからの郷愁に繋がる。今の教育現場は安全を重視する方向性ではあるので時代とは違うかもしれないが、宍粟の自然を活かした教育・体験も幼児教育としてできることがあるならやっていってほしい。小さいころのそういった記憶は、緑の無い都会の環境より、宍粟市の環境に居心地が良いと感じる理由になると思う。主体的なコミュニケーションや自分で考える力が求められる現代で、ほったらかし・あぶなっかしい教育（信じて待つ、見守る教育）も良い面もあると思う。 空き家バンクについては、農地付き物件で農地が放置されるトラブルも聞く。自治会と連携し、入居後のサポートや納得感のある受入体制を整えるべきだ。
委員	観光資源の価値向上について、宍粟市単体ではなく、近隣市町と連携した「ついでに寄れる」周遊観光のルート作りなどを進めてはどうか。
委員	誕生お祝い品について、年子などの家庭では同じ積み木が重なってしまうことがある。現在は選択制になっているか。

事務局	お祝い品は現在、選択できるようになっている。
委員	住民自身が地域の魅力や価値を再認識することが発信力に繋がる。「不便」ではなく、「豊かな資源」として捉え直す啓発が大事だ。木育は宍粟市民にとっては当たり前の取組であるが、木材を使った遊具などは外から非常に高く評価されている。「保育園留学」のような取組も、市外の人が宍粟の良さを評価する良い機会になるので、積極的に取り組み、市を良いところと思ってくださる方が増えていったらよい。
委員	重点目標 3 については特にないが、できる限り積極的に内外へ発信してほしい。
委員	J-クレジット認証量を増やす目標が立てられているが、クレジットを売却すると市の CO2 吸収量としてはカウントできなくなる点を認識しておく必要があると思う。また、自治体では 10～20 年前くらいから生産森林組合を作り始めたと思うが、今はもう税金を納めるだけとなっている自治会も多いと思う。森林の集約化も含めて目標の 1 つとして検討していけると良いと思う。
事務局	地域おこし協力隊の費用対効果は、事業評価を行う段階で情報整理し、委員会に報告する形をとっている。また、アウトプット指標については、目標値の上方修正も再度検討し、前向きな数値となるよう努めたい。 観光のブランド化については、紅葉シーズンの「もみじ山」周辺の賑わい作りや、山崎商店街での創業支援を重点的に進め、波及効果を狙っていけるよう今後取組を考えている。 文化財については、昨年「保存活用地域計画」を策定した。市内の未登録文化財の掘り起こしも含め、観光資源として次世代へ繋げていくため、地域・行政等、一体となって取り組んでいきたい。
委員	１点、情報として提供してもらいたい。人口減少は普通交付税の算定に大きく影響する。人口１人当たりの交付税算入額を教えてほしい。人口を維持することがどれだけの財源確保に繋がるかを共有できれば、どれくらいの金額をかけて、人口維持施策をしていけるのかが分かり、施策の妥当性を検討する材料になる。 ■第３次総合計画及び総合戦略の答申案について【資料④】 （説明）
委員	本計画の策定に関する情報はし一たん放送等で発信されており、多様な意見を取りまとめてこの計画ができあがった。本会議も意見を取り入れる方法として重要な場であるが、林業や農業等の関係者を一堂に集めて意見を聴く場がもっとあればよかったように思う。 ロジックモデルを取り入れた計画書は非常に良い。答申書の 7 番にある

	「対話」についてだが、熊本県でも実施されている「PI（パブリック・インボルメント）」の手法を具体化し、施策の推進段階で市民に知らせ、巻き込む仕組みを強く盛り込んでほしい。また、PI の手法について、市としてどのように取り組んでいるか、今後取り組めるのか確認したい。
事務局	熊本市の取組についても確認し、市としての回答を取りまとめたいと思う。またフィードバックする。
	■その他 （報告） ・9 月 7 日：市長への答申 委員長と副委員長が出席し、市長に対して本委員会の検討結果を報告する「答申」を行う。 ・9 月中旬～10 月中旬：パブリックコメントの実施 広く市民からの意見を募集するため、約 1 か月間に渡ってパブリックコメントを実施する。 ・パブリックコメント終了後：最終案の調整 寄せられた意見を踏まえ、事務局（市）の方で最終的な計画案の調整を行う。 ・12 月：市議会への上程・議決 市議会定例会に計画案を上程し、議決を経て完成となる運び。 なお、本日の会議で出された意見に基づく文言の修正や細かな調整については、委員長及び副委員長と相談の上で最終案を仕上げる。
委員	【各委員から一言】 地方は歴史的に人材を育てて中央へ出す役割を担ってきたが、その「育てる力」が薄れてきている原因を考える機会としての会議だった。この計画により、地方の昔の力が戻ってきてほしいと思う。
委員	現在、戦後以降初めて経験する「人口減少」に直面している。これが現実に各部署や地域にどのような影響を与えるのか、真剣に考え、共有できる場が必要だと思うし、取り組んでいけると良い。
委員	職員には現場に出てほしい。管理部門（企画、総務、財政）こそ、机上の仕事だけでなく市民と対話し、あるべきまちの姿・市の魅力を模索すべきだ。エールを込めて申し上げたい。
委員	揖保川での魚つかみ取りイベントにたくさんの方に参加いただいた。7

	割が市外客で、宍粟の自然や山の色の素晴らしさを味わって帰ってくれた。盆踊りの継承や身近な自然の中での生きていくための知恵を子どもたちに伝えていきたいし、そのための活動をしていきたい。
委員	以前に比べて子育てや観光の面で改善を実感している。今後も多くの問題があると思うが、よろしくお願いしたい。
委員	行政の方や委員の皆さんが、本当にたくさん宍粟のことを考えていることが分かる素晴らしい会だった。一度外に出たからこそ分かる宍粟の良さもある。市で学んだことを伝え、農業の面から今後も支えていけたらと思う。
委員	市に赴任してから短い身でありながら、意見することに少し申し訳なく思うときもあった。佐用町など他の自治体の会議にも参加しているが、検討方法や会議の手法（付箋を使ったタウンミーティング等）の違いを感じた。宍粟市でももっと早い段階から市民の意見を取り入れる開かれた場があっても良かったのかもしれないと思う部分もある。
委員	西播磨に 50 年以上住んでいるが、宍粟市民の温かさや市民性のポテンシャルの高さを感じている。厳しい世の中だが、計画を広く知ってもらい、良い地域作りを進めてほしい。
委員	改めて、計画を動かしていくのは住民一人ひとりなのだなと感じた。ロジックモデルの分かりやすさについても学んだので、学びを活用し、「普段の暮らしの幸せ（福祉「ふくし」の頭文字）」を実現できるように努めたい。
委員	前半はあまり参加できず申し訳なかった。引き続き、将来の宍粟を考えていきたいと思う。
事務局	全８回にわたり慎重な審議と活発な意見交換を行ってきた委員各位に対し、深く感謝を申し上げる。合併から 20 年が経過したが、今後も市民の生活や健康を守り、安心・安全なまちづくりを推進していく。市の最重要課題は人口減少。老朽化するインフラの維持管理、福祉サービスの提供、地域産業の振興など課題は山積みだが、厳しい財政状況と限られた人的資源の中で、いかに行政サービスを維持していくかが問われている。市民が「住んで良かった」と思えるまちづくりを実現するため、今後も地域課題の解決に向けた意見やアイデアを積極的に寄せてほしい。
委員長	2007 年から約 20 年、宍粟市に関わってきたが、これが最後の機会かもしれない。宍粟市の皆様の健闘をお祈りする。
副委員長	15～20 年後には人口が３分の２になるという厳しい現実がある。この委員会での議論は非常に有意義だった。今後も施策のチェックや意見出しに

	関わっていきたい。委員の皆様も、現場の立場から色々な意見を伝えてほしい。まだまだ暑さが続く中ではあるが、健康に気を付けてお過ごしください。 ■閉会 以上